

市民フォト

No.17・2014年冬号

ふくしま

夢

通信





▲囲炉裏を囲んで、年中行事の説明を聞く参加者
撮影：市民カメラマン 加藤秀雄さん

特集

福島市民家園巡り

生きた文化に触れる 小さな冬の旅

福島市民家園は、江戸中期から明治初期にかけての民家や芝居小屋、商人宿、料亭などが移築復元されています。いつもすがすがしく掃き清められた民家の前に立つと、中から主が出迎えてくれそうなほど生活感に溢れています。かつて私たちの先祖が周りの自然に心から感謝しながら暮らしていたことが伝わってきます。

現在、ボランティアの皆さんの協力により地域に伝わるさまざまな年中行事の再現も行っています。自然への感謝と畏敬の念を大切に暮らしていた祖先の「生き方」生活の技術——を体験してはいかがでしょうか。



1 旧広瀬座

— 国指定重要文化財 —



明治20(1887)年頃、一大娯楽施設として建てられた芝居小屋です。舞台中央に人力で回転する回り舞台、その床下に奈落があります。楽屋の板壁には、当時来演した役者たちの落書きが多数残されています。現在も年に数回、公演会場として使われています。

2 旧奈良輪家

— 福島県指定重要文化財 —



18世紀中頃の建築とされる上層農民層の住居です。にわ(土間)が広く、奥に一部屋の座敷があるのが特徴です。側面と背面が厚い土壁で開口部が閉鎖的。上屋柱が計15本も現(あらわ)し*になっているなど古い民家の要素を保つ建物です。
*柱や梁などの構造材が見える状態で仕上げる手法

3 元客自軒(旧紅葉館)

— 福島市指定有形文化財 —



慶応4(1868)年に起きた世良修蔵暗殺事件の重要な舞台となったことで知られる元客自軒は、幕末から明治初期にかけて市内北町に所在した割烹旅館でした。



荒川のせせらぎが聞こえる松林の中に佇む建物群は20棟あり、養蚕農家や宿場町の宿屋など、県北地方を中心とした特色のある建物を自由に見学することができます。曲がった柱や梁、踏み固められた土間など、当時のままの建物内部には、生活用具や生産用具も再現配置されています。また、民家の周りには、井戸や風呂場、板倉、火の見やぐら、屋敷神など、昔の暮らしが分かるように再現されているので、歩いていくうちに、昔の福島市にタイムスリップしたような錯覚を覚えます。

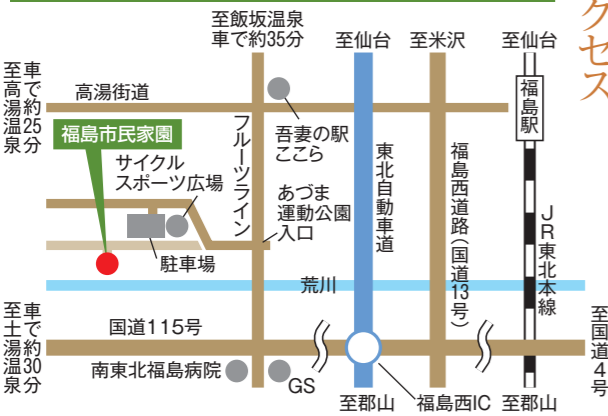
市内の建造物として初の国指定重要文化財となった「旧広瀬座」は、舞台中央に人力で回転する回り舞台、その床下には奈落もある明治時

代芝居小屋です。広大な敷地のほぼ中央にある旧奈良輪家は、18世紀中頃の建築とされる住宅で、奥の「座敷」の列が多いほか「とりのま」や広い「にわ(土間)」があるのが特徴です。料亭「元客自軒」も民家園を代表する建物の一つです。明治中期に、福島市の自由民権運動の中心人物、河野広中が当時の所有者の求めに応じ紅葉館と命名しました。この建物は、昭和時代まで下宿屋として使われました。

家屋が建てられた時代や歴史などをひもとくしながら巡ると、散策もより深く心に残りますね。

歴史をひもとくしながら巡れば
素朴な昔の暮らしが
深く心に染み入ります

福島市民家園 福島市上名倉字大石前地内(あづま総合運動公園内)



問い合わせ/☎024-593-5249
 開園時間/午前9時30分～午後4時 ※入園料無料
 休園日/毎週火曜日(火曜日が祝祭日の場合はその翌日が休園日)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 交通/・JR福島駅からタクシーで約25分
 ・JR福島駅から福島交通バス(佐原行き)「室石」下車、徒歩約8分
 【平日:約5本、休日:約9本】。詳しくは福島交通 ☎024-535-4101
 にお問い合わせください。
 ・東北自動車道福島西ICから車で約10分
 周辺/飯坂温泉観光協会 ☎024-542-4241
 温泉情報 土湯温泉観光協会 ☎024-595-2217
 高湯温泉観光協会 ☎024-591-1125
 ※詳しくはお問い合わせください

季刊誌「板木03」発売中

福島で行われてきた年中行事や民俗資料(民具)について、分かりやすく説明しています。

価格 300円(税込み)

※民家園の運営費に充てられます。

●福島市内、郡山市内、会津若松市内の一部の書店で販売
 詳しくは市ホームページ(総合トップ→各課のページ→文化課内「季刊誌」創刊のお知らせ)または文化課へお問い合わせください。
 <問>文化課 ☎024-525-3785

●県外発送
 名前、住所、電話番号、商品名「板木」、必要冊数を以下の問い合わせ先まで電話またはメールでお知らせください。
 ※送料と振り込み手数料はお客様ご負担となります。
 <県外発送に関する問い合わせ窓口> 福島県図書教材株式会社
 ☎024-522-3157 ☎024-522-3199 メール:futsuhin@fukukyohan.co.jp

アクセス

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。

◆ ◆

仲良く暮らすための知恵を伝える役目もあつた年中行事

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。



1年の収穫に感謝し「おつつ」を供える

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。



収穫祭では餅つきが行われ、振る舞われました

◆ ◆

年中行事の体験を通して先人の知恵や技術を伝える

◆ ◆

その土地で生きていくためには、人々の間に共通の理解が必要になります。年中行事には、自然への畏怖や祖先への感謝が根源にあり、そこには深い祈りが織り込まれています。自然も人も全てが繋がっています。



防虫・防腐対策のため囲炉裏には火が入れられています

会長 太田隆夫さん

ボランティアグループ「民家園のつどい」

今ここにいる自分の拠り所

12月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	3月	2月	1月	月	行事
											「小正月」
											「おひなさま」
											「男の節句」「田おこし」
											「むけの朔日」「いたち」
											「たなはた」
											「盆の行事」
											「お月見」
											「子ども秋祭り」
											「稲刈り・脱穀」
											「収穫祭」
											「正月迎え」

参加者と一緒に行事を体験し、喜びを分かち合います

写真①～⑤ 撮影:市民カメラマン

①② 穴戸良之さん
 ③④ 中山真波さん
 ⑤ 佐久間智之さん



⑤ たなはた(七月上旬)
 青竹に七夕飾りをして各民家の軒先に立てます。飾りの種類ごとに願いごとの意味があり、豊漁・豊作、長寿などを祈ります



④ 田植え(五月下旬)
 5月5日のこどもの日に田おこしをした田んぼに入って田植えをします



③ ひなまつり(二月下旬～三月初め)
 各民家にひな人形を飾り、菱形に切った紅白の餅を供えて女の子の健やかな成長を祈ります



② 節分(二月下旬から三月初め)
 各民家の門口の柱にやっかがし(イワシの頭を刺した豆の枝とヒイラギ)を取り付けた後、豆まきや大豆の揚げ方で一年の天気や占(まめうら)を行います



① 小正月(二月上旬)
 松飾りやしめ縄などを燃やし、正月に来た神様を送り出す「どんど焼き」やミズキの枝に紅白のだんごを付けて五穀豊穡(ごこくほうじょう)を祈る「だんごさし」を行います

▼写真の人が入っている所が直径90センチメートルの柱を埋めた穴



巨大な柱の跡

広場を囲んで並んだ**掘立柱建物**の中には全国でも最大級の直径90センチメートルの柱を使った建物も存在します。掘立柱建物は、家や倉庫、あるいは祭祀などに使われた特別な建物と考えられています。

この建物の外側では、**埋甕**と呼ばれる子どものお墓がたくさん見つかっています。縄文時代には今のように病院がなく、多くの子どもが大人になる前に死んだのではないかとわれています。

D 子ども用遊具

北側多目的活用地区ではサイクルライミング、子ども用の複合遊具やターザンロープ、ブランコで楽しく遊べます



C 竪穴住居(復元)

土屋根の竪穴住居の入口を入ると縄文人の使った複式炉も復元されています



B 露出展示

露出展示室では発掘調査で見つかった約3500年前の本物の土器がそのままの状況で見学できます

※見学したい方は事前に文化課にお問い合わせください



A 掘立柱建物(復元)

直径60cmの柱を使った掘立柱建物。柱や建築材はクリを使用しています



宮畑遺跡史跡公園

じょーもぴあ 宮畑

部分開放開始

みや はた

問/文化課 ☎024-525-3785



建物の中には全国でも最大級の直径90センチメートルの柱を使った建物が存在していました。また土屋根の竪穴住居跡が見つっています。

体験学習施設(平成27年完成予定)

宮畑遺跡は平成15年に国の史跡指定を受けた縄文時代の遺跡です。平成25年10月6日、部分開放を記念して「じょーもぴあ宮畑まつり」を開催しました。平成27年度には新たに体験学習施設を整備し、全体オープンする予定で準備を進めています。

宮畑遺跡の特徴は、広場を囲んで掘立柱建物と埋甕(左ページ上参照)が計画的に配置されていることです。掘立柱

じょーもぴあ 宮畑まつり開催!

A 掘立柱建物(復元)



交通手段 ●東北自動車道福島飯坂ICから車で約15分。
●福島駅東口③番バス乗り場から月の輪行きに乗り、向鎌田バス停下車。徒歩7分。

全国からお客さんが「じょーもぴあ宮畑」に、そして福島市に集まってくる。その一助になりたいという思いで活動しています。平成27年には新たに体験学習施設ができる予定です。そうならば私たちの活動もますます活発にできるし、夢や希望が広がります。親子が楽しみながらこの公園を使ってもらって縄文時代に思いを馳せてもらいたい。また若い人だけではなくお年寄りまで、新たな刺激や興味を持って生きがいを見つけるきっかけになる場所にしていきたいと思っています。



若い人からお年寄りまでが楽しめる施設に

じょーもぴあ・遺跡の案内人 会長 黒澤 宣昭 さん



◀ 掘立柱建物見学



まがたま 勾玉づくり体験 ▶



土器焼き体験 ▶



「縄リンピック」弓矢的当て ▶ 市民フォト・ふくしま夢通信 6

「じょーもぴあ 宮畑まつり」の動画は YouTube 「ふくしまチャンネル」からご覧いただけます。[市ホームページ バナーを] [ふくしまチャンネル] [ライブ]

宮畑ミステリー大賞 開催決定!

宮畑縄文人が残した‘2つの謎’をテーマにした小説・漫画を募集する「宮畑ミステリー大賞」を平成26年4月から開始します。

問/文化課 ☎024-525-3785

募集作品

「宮畑遺跡の謎」に基づく小説および漫画

- ・謎 その1：直径90cmの巨大な柱（縄文時代晩期）
- ・謎 その2：47.82%の焼かれた家（縄文時代中期）

ミステリー、SF、ファンタジー、ライトノベルなどジャンルは問いません。

【小説の文字数】400字詰原稿用紙 100枚(40,000字)以内、下限なし

【漫画の頁数】32頁以内

審査の基準は「おもしろさ」のみ!

審査員(予定)

佐藤B作さん(俳優)

佐藤秀峰さん(漫画家)

清水克衛さん(書店「読書のすすめ」代表、本のソムリエ)

表彰

最優秀賞(1点) 賞金、縄文土器カップ、福島市特産物

優秀賞(2点) 縄文土器カップ、福島市特産物

特別賞(数点) 縄文土器カップ、福島市特産物

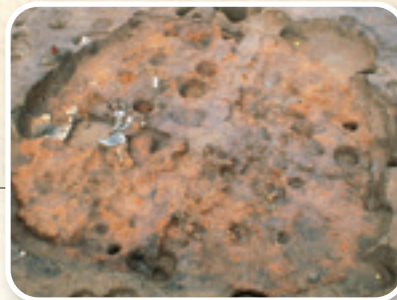
その他

受賞作品は、株式会社現代書林の協賛により、単行本で出版します。
※詳しくはお問い合わせいただくか、市ホームページ(総合トップ→募集内「宮畑ミステリー大賞開催決定!」)をご覧ください。



▲【謎 その1】 巨大な柱

写真は復元された直径90センチメートルの柱を使った掘立柱建物です。
1本の柱の重さは3トンを超えます



◀【謎 その2】 焼かれた家

屋根に載っていた土が火事で赤い土となり家一面を埋めています

宮畑ミステリー大賞 関連事業

宮畑公開講座 入場無料

日時 2月2日(日) 午後2~4時

会場 福島テルサ FTホール (福島市上町4番25号)

◆ テーマ 宮畑ミステリー大賞テーマ!
~直径90cmの柱と47.82%の焼けた家~

◆ 対談者 岡村道雄さん (奥松島縄文村歴史資料館名誉館長)
岡田康博さん (青森県教育庁文化財保護課長)

◆ 内容 ●縄文人とその精神文化
●宮畑ミステリー大賞のテーマは本当にミステリーなのか? なぜミステリーなのか?
●全国の縄文ミステリー

CONTENTS

2 特集
福島市民家園巡り
生きた文化に触れる
小さな冬の旅

6 宮畑遺跡史跡公園
じょーもびあ宮畑 部分開放開始
じょーもびあ宮畑まつり開催!

8 インフォメーション

- 宮畑ミステリー大賞 開催決定!
- 宮畑ミステリー大賞関連事業「宮畑公開講座」

表紙紹介



「だんごさし」

撮影: 佐久間 智之さん (平成25年度市民カメラマン)
撮影地: 民家園 (平成25年1月14日)
撮影者コメント:
民家園で行われた小正月の行事「だんごさし」より。冬らしく雪が舞う中、訪れた子どもたちは思い思いの大きさに仕上げた紅白のだんごを、気持ちを込めて枝に挿し飾りました。

市民フォト・ふくしま夢通信

平成26年1月1日 発行 No.17 2014年 冬号

<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>

編集
発行

福島市役所 広報広聴課

〒960-8601 福島市五老内町3-1

☎024-525-3710 FAX024-536-9828

E-mail: kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

ホームページもご覧ください

福島市

検索

クリック

YouTube

チャンネル

ふくしまチャンネル

twitter

アカウント

fukushimacity

Facebook

アカウント

福島市